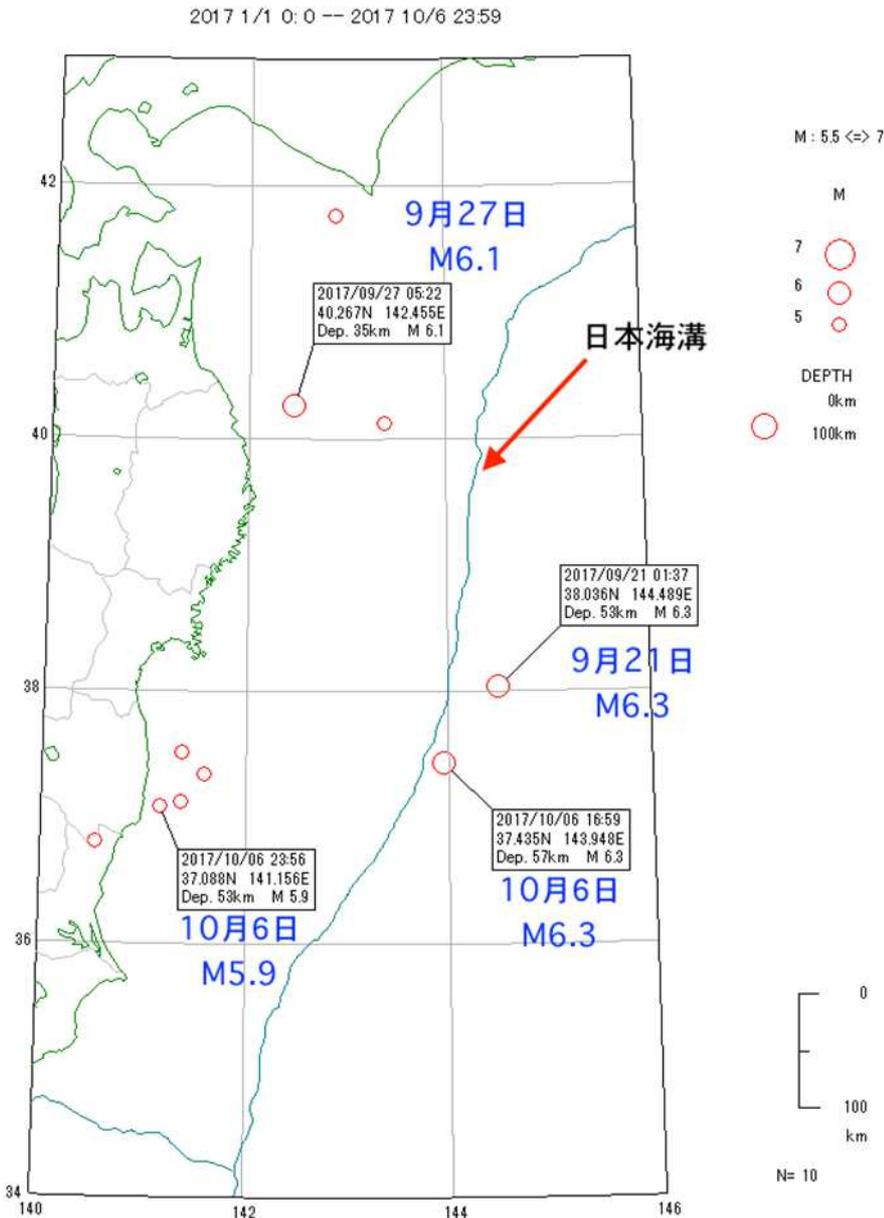




## 東北沖の状況が大きく変化しているようです

10月6日、23時56分ごろ、福島沖でマグニチュード5.9の地震が発生し、久しぶりに関東地方にも緊急地震速報が流れました。下の図は今年の1月1日から10月6日までのマグニチュード5.5以上の地震です。大きいほうから数えた4個が9月21日以降に発生していた事がわかりました。

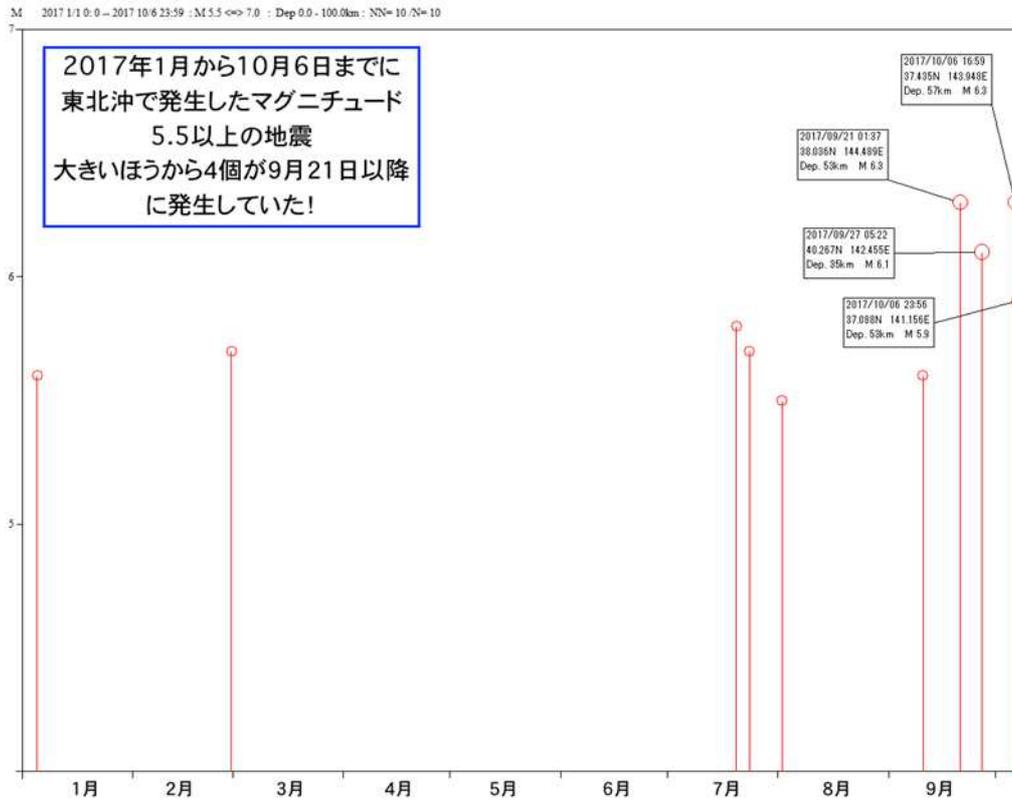


特に10月6日昼の地震はアウターライズの地震（日本海溝の外側で発生する地震）と呼ばれるもので、この日本海溝の外側で将来大津波を伴うマグニチュード8クラスの地震が発生するのではないかと地震学的には考えられています（東日本大震災により、海底が沖合に非常に大きく動いた事を打ち消すような動きが理論的に予想されているため）。

10月6日、23時56分に福島沖で発生した地震は、陸域に近かったため、マグニチュードは5.9とそれほど大きくはありませんでしたが、緊急地震速報が発令されたのです。



次の図は今年の1月1日から10月6日までに東北沖で発生した地震がどのような時系列で発生したかを表したものです。横軸が日時、縦軸がマグニチュードとなっています。9月21日以降、比較的大きめの地震が集中して発生していた事がわかります。



### 東北沖にターゲットを絞った地下天気図®

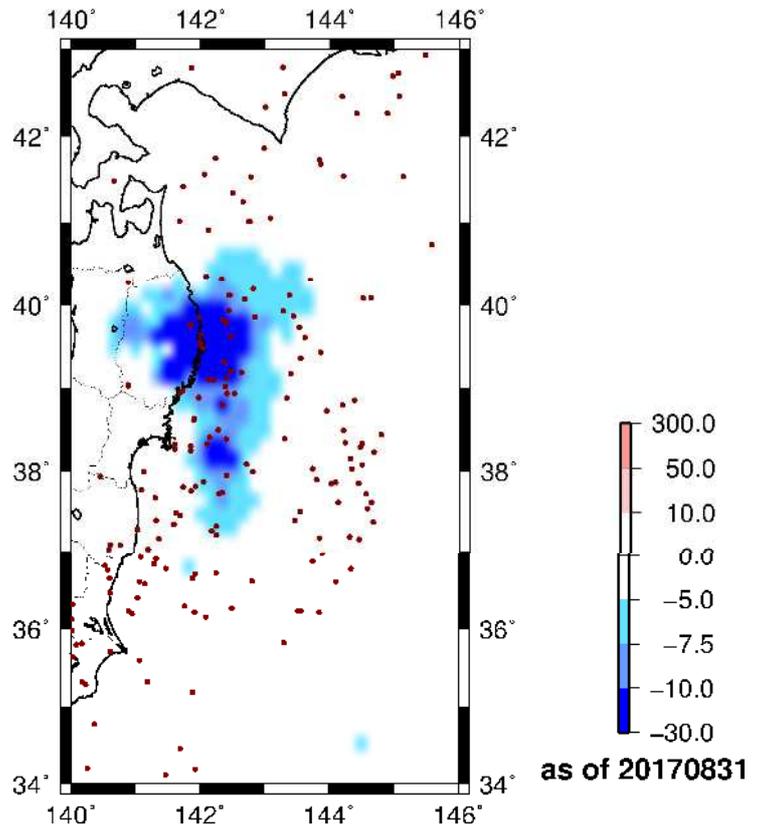
東北沖は東日本大震災により、大きく地震発生のパターンが変わってしまいました。そのため、予測が難しい地域となっています。

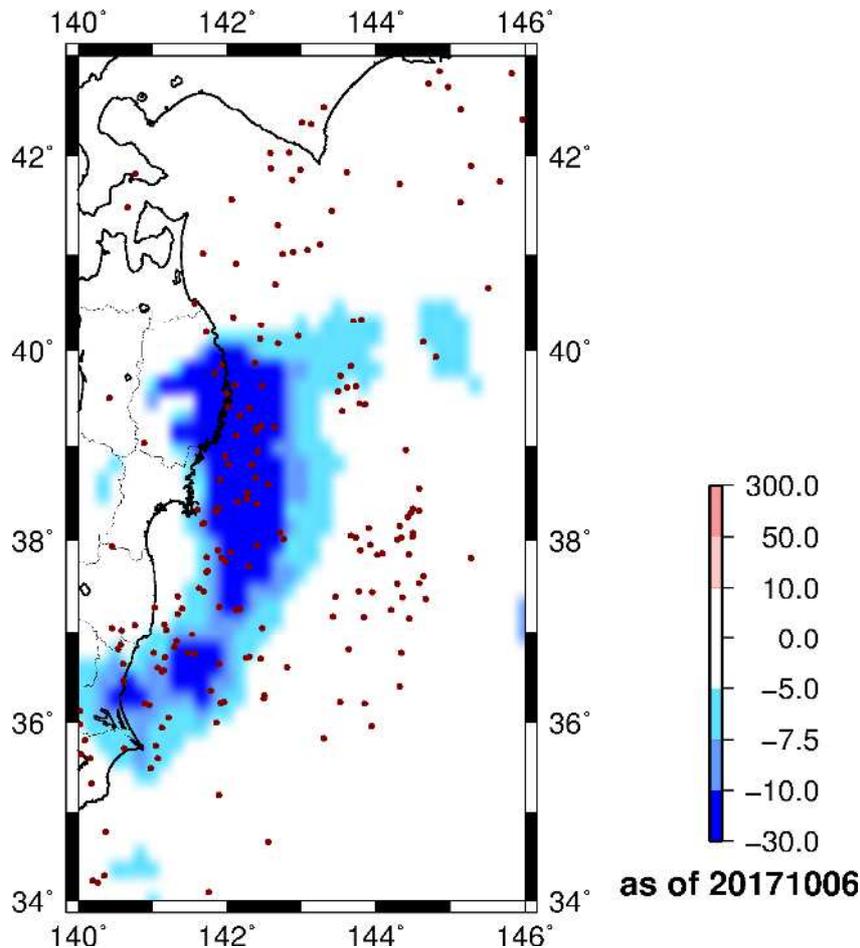
9月4日発行のニュースレターでは8月31日時点の地下天気図を紹介させて頂きました(右図)。

岩手県およびその沖合で地震活動静穏化領域(図中の青い領域)が広がっており、異常が少し小さくなった可能性があるかと報告させて頂きました。

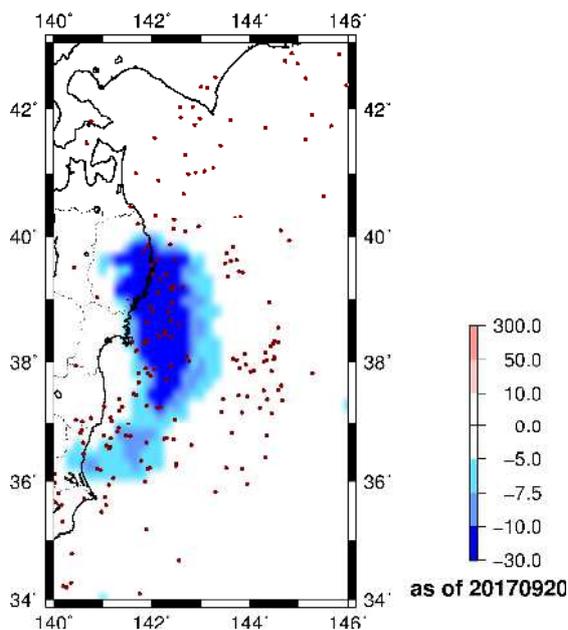
ところが、10月6日時点で解析を行ってみますと、どうもそうではなかった事がわかりました。

次のページに10月6日時点の最新の地下天気図をお示しします。

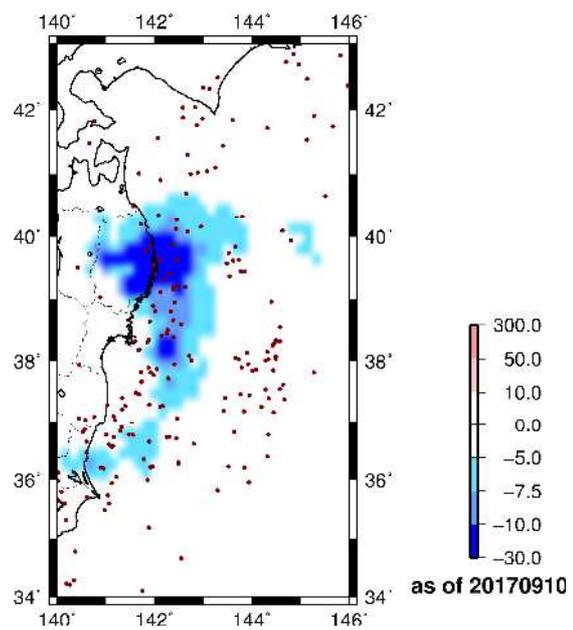




解析の結果、静穏化領域が岩手沖から茨城沖まで大きく広がっている事が確認されました。そしてこの変化は9月上旬の短期間に起きた事がわかりました。下の2枚の図は9月20日および10日時点の地下天気図です。東北沖は今後、津波を伴う地震の発生可能性が高くなったと考えています。



9月20日時点の地下天気図



9月10日時点の地下天気図